

## 岡山県社会教育委員の会議 議事要旨

平成23年度第1回社会教育委員の会議全体会（H23/8/30）

### 「平成23年度の研究内容について」の御意見

- ・教育プラットフォームの考え方は、一つの核が生まれれば、いろいろなところとのつながりができるというものである。日本の社会というのが、案外、地域もばらばらであったり、子どもと家庭と学校とのつながりも薄い、そういうところがいるな問題の生まれる素地にはなってきたのだらうと考える。だから、そういうところをいかにみんなができる範囲で、いろいろな角度から手をさしのべられる社会をつくっていったらというのが、この考え方の根底にあると思う。そこで、核になるコーディネーターをどうしていくかということなどが課題となるのだが、提言で一つの考え方の方向性を出すことにより、社会教育をもう一度活性化しましょうという気運が高まることが期待できる。
- ・親子に密着した活動を地元で行っている部分と、支援者同士をつないでいくというような大きな視点の部分とを自分は経験させていただいている。実際に地域の中でつないでいくコーディネーターと、もう少し大きな視野での総合コーディネーターの両方の必要性を感じている。新たに総合コーディネーターが必要だと打ち出すとしたら、やってみたいという思いだけにまかせていいのか、きちんとそういう役割として担っていただくような形にしていくべきなのかというあたりを整理していかないといけないと思っている。
- ・今、この時代の中であって、いざという時に助け合えるつながりであるとか、関係づくりというのは、ますます大切になってきている。岡山市もかなり都市化してきた地域もたくさんあり、地域のつながりづくりや、地域のコミュニティーの再生という視点からも、今考えているプラットフォームというのは大切ではないかと感じている。
- ・現在、乳幼児と、小学生、思春期に少しかかるくらいのお母さんたちの勉強会、そして、子育てサロンに関わっているのだが、子育てというのは小さい時のみではなくて、中学生、高校生、社会人になる少し前のいろいろな方々への支援は、やはり必要だったのだなということを変更して認識している。ひきこもりとか、不登校を出さない意味でも、長い支援というのは必要であると感じている。また、退職されてまだまだキャリアもあり、知識も豊富な方々に、地域で活躍していただく場であるとか、そのようなネットワークができていけば、地域も活性化し、人々も元気になり、さらに子どもたちにも元気を与えることになるのではないかと感じている。
- ・昔は、家庭が地域の中でつながっていたり、学校と地域がつながっていたりすることが、ごく自然で当たり前であった。そのようなつながりが薄れていく中で、ネットワーク、あるいはプラットフォームを考えて、人が育つ、子どもが育つ、あるいは大人も含めて育つ、人としての人間形成をするシステムをもう一度構築していかなければいけないということが課題となっていると思う。そういった意味からすると、検討されている内容というのは非常に重要なことであって、これを進めていくのは大変重要なことだと思う。それも1年、2年でなかなか結果が出るものではなく、継続的に何年も時間がかかるものだろうと思う。
- ・電話相談を受けてよく感じるのは、保護者の人間関係の希薄さである。テーマ別コーディネーターが必要だと思うのだが、その下にまた、地域別にカバーできるきめ細かな組織が必要ではないかと思う。岡山県全体として、できるだけ地域格差のないような方策ができていければと思っている。